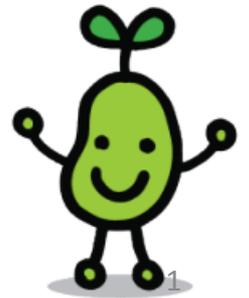


子どもの貧困実践交流会2015

「貧困家庭へのアウトリーチ実践報告」  
～学習支援の向こう側を目指して～

特定非営利活動法人ビーンズふくしま  
副理事長 鈴木 綾

2013. 4.30



# 目次

- 団体・自己紹介
- 活動背景
- 実践報告（カンファレンス）
- まとめ（課題提起）

# 1 自己紹介・活動紹介

活動から見える困難の起点

# 自己紹介

NPO法人ビーンズふくしま  
チャイルドラインこおりやま  
副理事長 鈴木 綾

2002年～

フリースクール事業

若者の居場所事業

地域若者サポートステーション

生活保護世帯子ども支援等従事

2011年

うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト県中地域立ち上げ

2012年 チャイルドラインこおりやま立ち上げ



# 団体紹介

1999年9月9日9時9分9秒

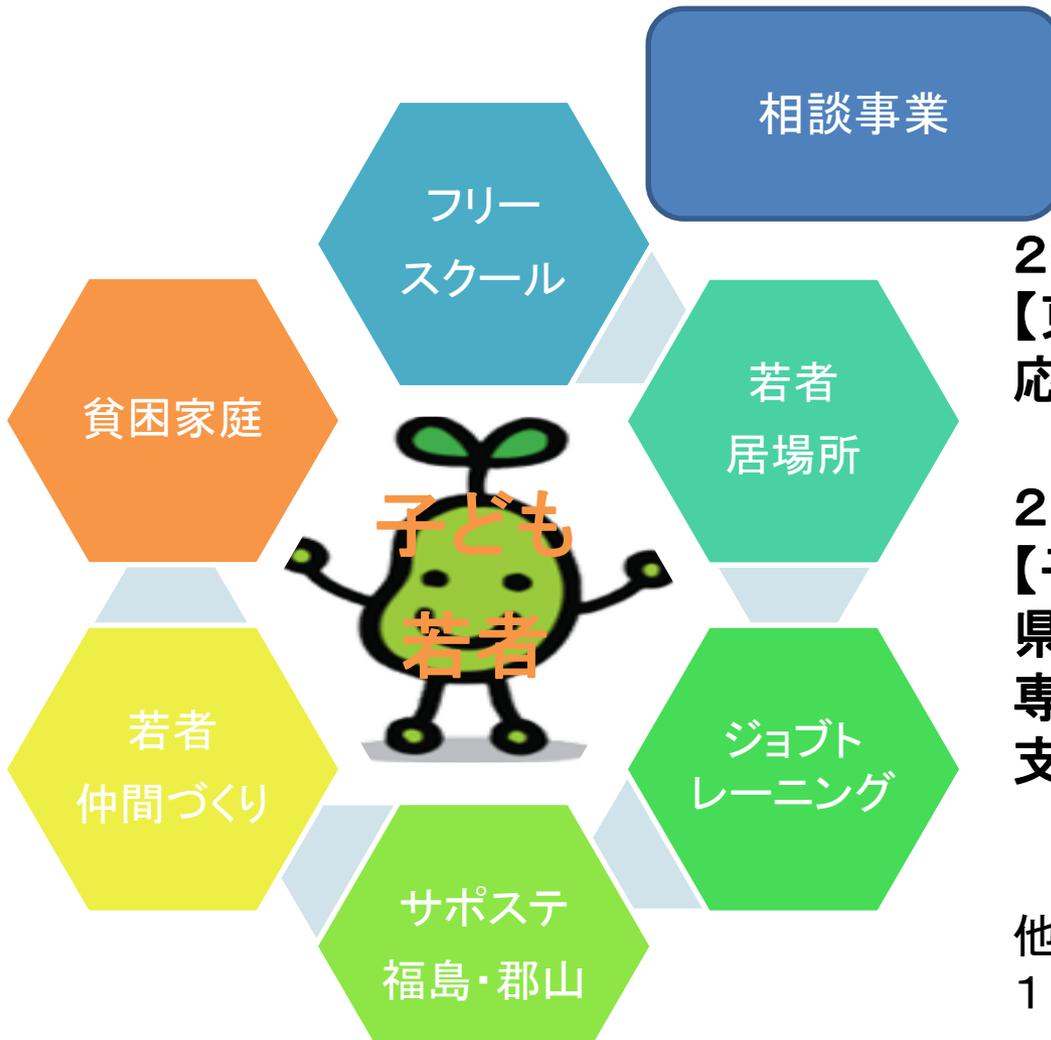
フリースクールビーンズふくしま誕生

【名前の由来】

子ども達の天まで伸びる無限の可能性を  
ジャックと豆の木の豆に込めて



# ビーンズふくしま活動



2011年～  
【東日本大震災避難者支援】  
応急仮設でのコミュニティづくり

2012年～  
【子ども支援センター】  
県内外避難者支援  
専門家派遣  
支援者研修

他子ども若者の孤立問題解決の為の事業  
11事業

## スタッフとの標語

「あるものはやらない・(必要で)ないものは創る！」

# 課題の背景

「不登校・若年無業者社会参画支援」  
フリースクール・相談事業

厚生労働省認定「地域若者サポートステーション」  
福島県委託「ピアサポートネット」「生活困窮者支援」  
東日本大震災被災者支援事業

子ども若者の多様な  
社会参画機会づくり

出会い・交流・活躍・成長の場

実践例：宅配花屋事業・ピアサポート(即興劇編)・中山間地域支援ワークキャンプ



## 地域交流実践によるエンパワーメント

課題

本当に困っている(孤立している)人は、  
ビーンズ(地域)まで辿りつかない...

# 活動背景

# フリースクールで出会った貧困

中学生の女の子 母・妹と3人家族  
「つらい・居場所がない・死にたい」

母親は、昼は派遣の仕事  
夜はアルバイトをしていたので、  
家では妹と二人で、毎晩冷蔵庫に入っている  
パンや惣菜を食べて過ごしている。  
朝食も同じ

孤食がつらいとの事だけではなく、  
不安や孤独を、誰とも共有できない辛さを  
話してくれた。



# フリースクールで出会った貧困②

中学生の男の子

平日の昼間にフリースクールの近くのコンビニに立っている。

声をかけると、

「友人から、フリースクールが在る事を聴いた。  
お金がないから通う事は出来ないけど、  
仲間に会えないかと思って・・・」

家庭訪問→利用開始

貧困による学校外教育機会からの排除



# 貧困との出会い

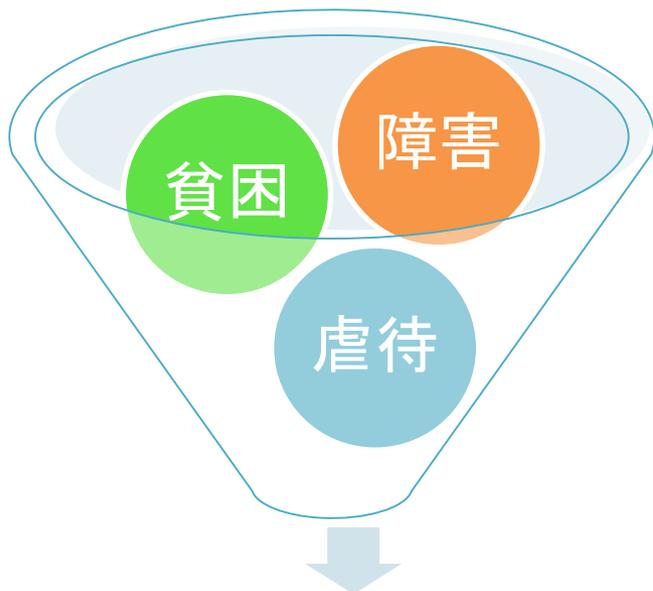
報道やデータでは、知っていたが  
年々、実際に身の回りに顕在化していった。

教育機会作りだけではなく、  
教育機会や、支えてくれる誰かに  
辿り着く支援の必要性を痛感

# なぜ辿り着かないのか？

貧困家庭の支援を通じて感じる事は、貧困家庭の持つ複合的な課題背景である。

例



貧困・社会的排除の表  
れは、複合リスクが関  
わっている場合が多い



**貧困・社会的排除**

ヘルプスキルが弱い

# 行政と協働によるアウトリーチ

県との協働で町村での活動を実施

《行政の力も民間支援団体もない地域》

孤立状態が、常態化している。



アウトリーチにより支援の実施

行政との協働メリット

- 個人情報取得
- 多様な機関との連携（学校 保健所 病院）
- 支援コストの確保

# 支援フロー

対象家庭への意思確認

「生活保護ケースワーカー」

対象家庭へ訪問説明

「ケースワーカー・ビーンズスタッフ」

家庭教育のサポート 「家庭教師みたいなもんかい??」

本人・保護者同意→支援開始

「本人主訴をもとにした、支援チームによるアセスメントと支援の実施」

ビーンズが中心に、保健師 学校 SC SSW社協

# 行政とのすり合わせ

行政担当者の成果目標

「学力向上→公立実業高校への進学」

僕ら

「子どもの安心安全な生活→自尊心」

\* ごみ屋敷・風呂なし・母親の恋人からの暴力  
etc

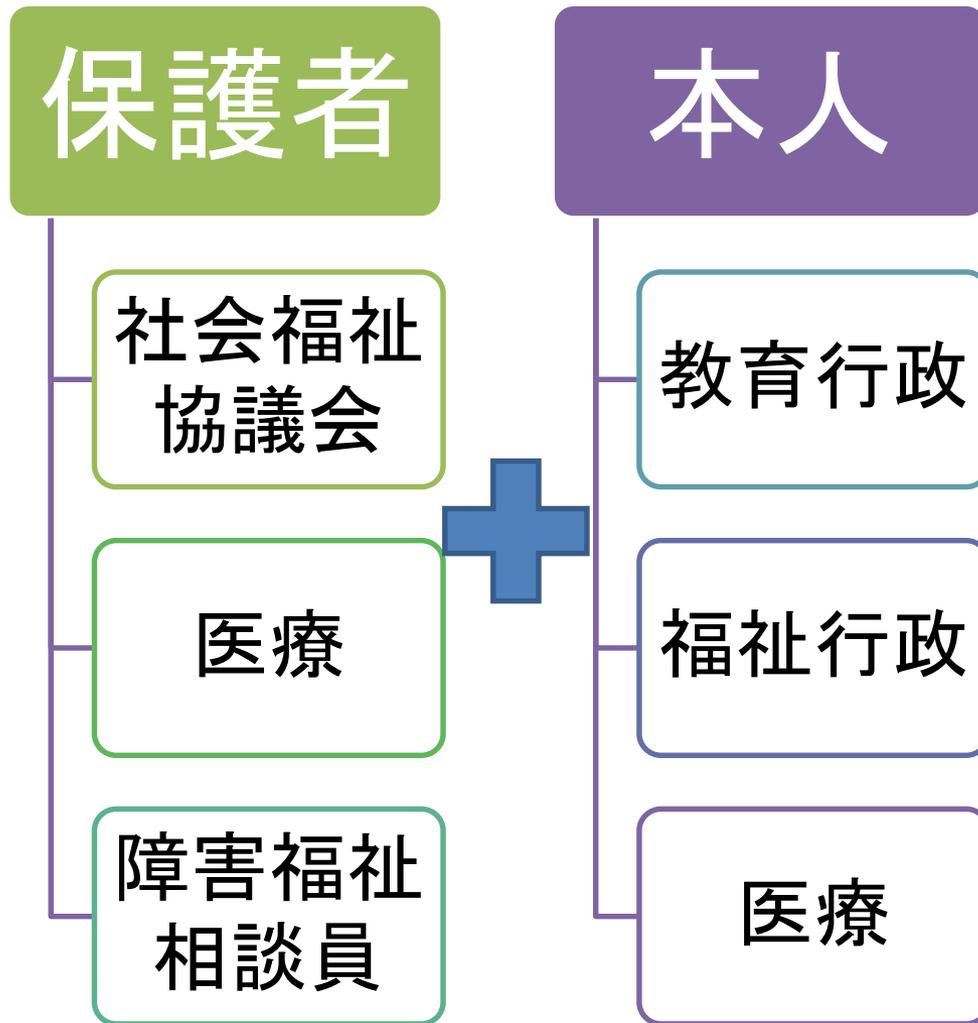
# カンファレンスの実施

本人主訴と環境を、支援チームと共有・協議



適正な支援計画の立案

# 地域連携によるサポート



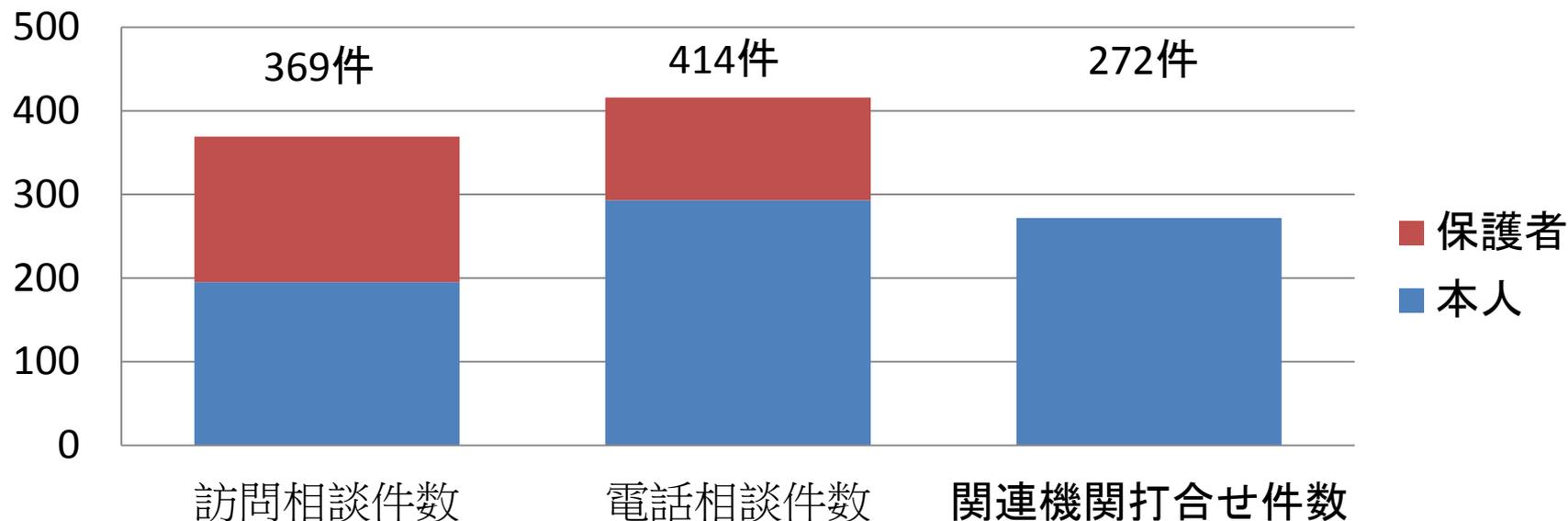
地域連携がなければ解決しない。

連携の阻害要因

- ・役割の範囲を支援者が超える困難
- ・連携するのはコストがかかる
- ・主たる支援者が決まらない

**+1人工の支援者確保**

## 相談等支援実績



- \* 訪問相談は、対象児童生徒とほぼ同数、保護者相談を行っている。
- \* 支援実施に伴い関連機関との打ち合わせも高い頻度で行っている。

5カ月の支援実施回数  
支援対象ケース14

# 対象者像と連携

## 対象者

自傷 摂食障害 知的ボーダー 障害  
発達障害 虐待 ストーカー

## 保護者

知的ボーダー ネグレクト OD 境界性障害



## 連携(ソーシャルワークが必要)

二か所以上の連携	14対象者のうち	11
三か所以上の連携	14対象者のうち	6

連携内訳:計272回

アウトリーチを中心に、  
地域の連携強化

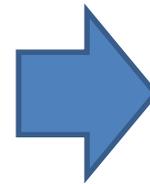
福祉インフラが向上する

他機関とのケース共有・ケースカンファ数21回  
平成25年4月～9月20日 約五カ月間

# 課題

## 貧困家庭支援と地域支援の挑戦

ステレオタイプの  
学習支援や学校復帰以前の  
本人たちを支える地域づくりの必要  
けど。。。。



解決への  
挑戦

ご清聴ありがとうございました。

鈴木綾

[harapeko.29.29@gmail.com](mailto:harapeko.29.29@gmail.com)

フェイスブック



どうぞ今後とも  
宜しくお願いいたします。